

(1日本史プリント 5-10)

第8章 1.幕府の衰退 b. 文化文政時代と大塩の乱

①文化・文政[1 化政]時代(18世紀末から19世紀前半)

11代将軍[2 徳川家斉](1837以降は大御所) 51年の治世

特徴…放漫な政治→政治腐敗の進行、[3 財政]の破綻

→[4 貨幣改鑄]と豪商への御用金賦課で切り抜けようとする

②農民層の分解の進展…関東を中心とした農民の[5耕作放棄]・離農、[6 博徒・無宿人]の増加

→1805[7 関東取締出役]を設置八州廻り

③[8 天保の大飢饉]の発生→各地で大規模な一揆、うちこわしの激発

甲州郡内一揆、三河加茂一揆など(1836)

④1837 [9 大塩平八郎]の乱発生→各地に波及(生田万の乱など)

大坂町奉行元与力・陽明学者

越後・国学者

c. 天保の改革

①19世紀中期(1841) 老中[10 水野忠邦](将軍 12代家慶)による改革

商品経済の進展に対処し、[11 絶対主義]化の方向を強める

②厳しい[12 儉約]令をだし、風紀を取り締まる→庶民の日常生活へも介入

消費欲望を抑制…人情本の出版禁止(為永春水を処罰)

③[13 人返し]の法…出稼ぎの禁止、都市貧民の帰郷を強制

④物価抑制策=[14 株仲間]を解散し、[15 流通の自由化]を保障

新興の在郷商人などを保護・育成

他方で、[16 棄捐]令を發布、貨幣悪鑄、商人への御用金の賦課など実施

↓

経済の混乱を招く→不満高まる

⑤[17 上知]令→大名・旗本の大反対を受け失脚

d. 雄藩のおこり

①天保期…各藩における強力な藩政改革の実施

基調…1)[18 藩財政の立て直し]と[19 人材登用]

2)一揆・打ちこわしなど農民の抵抗への対応→[20 藩権力の強化]

②薩摩藩…[21 調所広郷]が中心

借金帳消し、[22 甘蔗]専売の強化、[23 琉球]経由の密貿易拡大
洋式機械工場の設立(島津斉彬)、洋式武器の導入

③長州藩…[24 村田清風]が中心(←専売反対の天保大一揆がきっかけ)

借金帳消し、紙・蠟の専売を改革、諸国回船への貸付・委託販売など

④佐賀藩…藩主[25 鍋島直正]中心

[26 均田]制の実施=本百姓体制の再建を図る、陶磁器の専売

洋式軍事工場の設置→洋式軍隊の導入

⑤土佐藩、水戸藩などでも改革進む

⑥西南雄藩の台頭

1)有能な[27 中下級藩士]の藩政への参加

2)三都商人や藩内の[28 豪農]・商人との結びつきをつよめる

e. 近代工業の芽ばえ

①農村での[29 問屋制家内工業]の発展→先進地では[30 マニファクチュア]化

↓

酒造・絹織物・綿織物

購買力の低さや各藩の[31 専売制]の実施などで発展が阻害される

②洋式工場…幕府や雄藩(佐賀、薩摩、水戸など)の直営